



# INFOS

日仏整形外科学会広報誌 **アソフオ**

■会長……………金子和夫 Président ——— K. KANEKO	■副会長……………大橋弘嗣 Vice-Président — H. OHASHI	■書記長……………藤原憲太 Secrétaire général — K. FUJIWARA
■書記・会計……………青木 清 Secrétaire et Trésorier — K. AOKI	■幹事……………安永裕司 Membre exécutif — Y. YASUNAGA	久保俊一 本間康弘 今井晋二 飯田 哲 T. KUBO Y. HONMA S. IMAI S. IIDA
■名誉会員……………小野村敏信 Membre d'honneur — T. ONOMURA	小林 晶 坂巻豊教 A. KOBAYASHI T. SAKAMAKI	■顧問……………瀬本喜啓 Conseiller ——— Y. SEMOTO

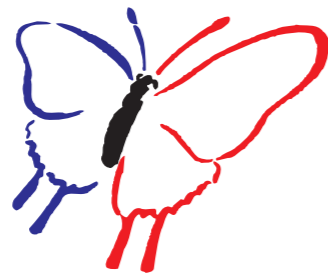
■事務局：〒 530-0012 大阪市北区芝田 2 - 10 - 39 大阪府済生会中津病院内（係：大橋弘嗣）  
Tel. (06) 6372-0333 Fax. (06) 6372-0339

Bureau : Maison d'édition: Saiseikai Nakatsu Hospital, Shibata, Kita-ku, Osaka 530-0012 JAPON

■発行所：〒 530-0012 大阪市北区芝田 2 - 10 - 39 大阪府済生会中津病院（編集者：大橋弘嗣）  
Tel. (06) 6372-0333 Fax. (06) 6372-0339

Maison d'édition: Saiseikai Nakatsu Hospital, Shibata, Kita-ku, Osaka 530-0012 JAPON (Éditeur : H. OHASHI)

■ホームページアドレス：http://www.sofjo.gr.jp



2018.3.31  
VOL. 28

## INFOS冒頭のご挨拶

順天堂大学整形外科 金子 和 夫

先ず、皆様にSOFCOTと日本整形外科学会との連携が実現したことをご報告します。

2016年にSOFCOT会長を務められたPhilippe HERNIGOU先生から、日整会理事長の丸毛啓史先生に連携の提案をしていただいたところ、以前より賛同していた国際委員会理事の田中康仁教授の御尽力もあり、すんなりと受け入れられました。

翌2017年5月には、仙台での日整会総会でHERNIGOU先生に招待講演をしていただきました。人工股関節摺動面の詳細な検討で、特にフランスオリジンのセラミックに関する長期成績の報告でした。

整形外科発祥の国であり、これまで多くの独創的な手術や検査法を実現してきているフランス整形外科と連携していくことは、我々にとって大きな意味があり

ます。これにより、益々日仏間の交流が広がり、連帯関係が強くなっていくと信じています。

さて、2017年11月のSOFCOTはChristianDELAUNAY先生が会長でした。AFJOでもおなじみのDELAUNAY先生は、ご家族共々数回来日されている気さくな親日家です。恒例の晩餐会は、歴史的建造物に指定されているPrintempsデパート内のガラス張りcoupole(丸天井)の下で催されました(写真1)。残念ながら私は帰国のために参加できませんでしたが、毎年のSOFCOT会長は会場選びに苦勞されていると思います。以前に使われたことの無い、特徴ある大規模な会場をパリ、もしくはパリから遠過ぎない所で探すのは、92回目のSOFCOTともなるとかなり難しいことでしょう。SOFCOTで気になるのは、日本からの参加が少ない点

です。学会自体は勿論のこと、趣向を凝らした晩餐会からフランスのエスプリを学ぶことも多く、日本から大勢の先生方の参加を願ってやみません。

2017年の第14回AFJOは、千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授・高橋和久先生と船橋整形外科病院

人工関節センター長・老沼和弘先生お二人の会長で、5月12日・13日に栃木県の日光東照宮で開催されました。東照宮の敷地内にある丹下健三氏の設計による社務所、という大変荘厳な会場での学術集会でした(写真2a,b)。リヨンからのMichel BONNIN先生はセメント非使用



●写真1



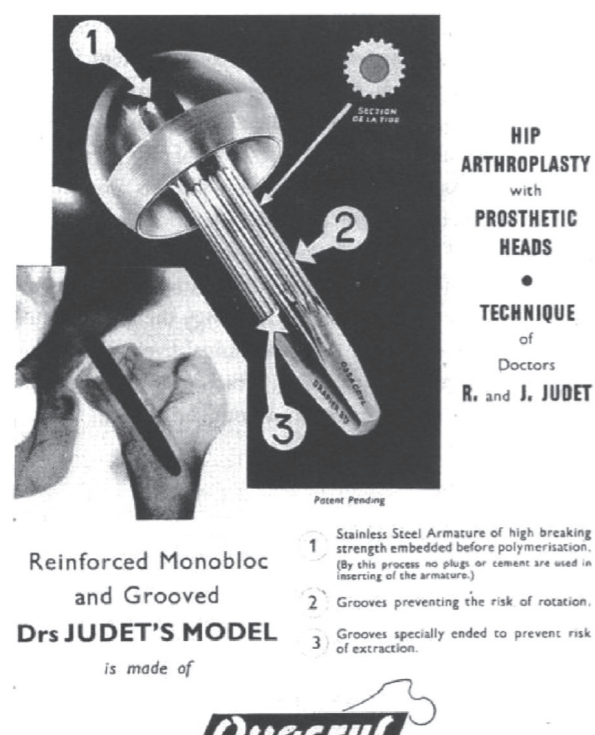
●写真2a



●写真2b

人工股関節置換術の歴史について詳細に報告し(写真3a)自身の開発したセメント非使用人工股関節置換術“Corail”の30年にわたる臨床経験を示し、安定した成績や将来の展望について述べ、携わった方々の紹介

もしておられました(写真3b)。パリのLuc KERBOULL先生は来日出来ませんでしたが、友人のPascal VIÉ先生が代理で、BONNIN先生とは対極のセメント使用人工股関節置換術の手技やアドバンテージ について報告



●写真3a



●写真3b

しました。二日目のランチョンセミナーではリヨンの Séastien LUSTIG先生が、股関節前方進入法によるダブルモビリティ人工股関節全置換術の好成績を披露しました。会長招宴で多くの参加者が盛り上がりでしたが、そのホスピタリティーをフランス側参加者は絶賛していました(写真4a.b)。

本年2018年7月7日のSOFJOは、滋賀医科大学整形外科・今井晋二教授に主催していただきます。『温故知新』のテーマで、琵琶湖ホテルにて開催されます。是非、数多くの学会参加やプレゼンテーションをお願い申し上げます。

また、2018年神戸での第91回日本整形外科学会学術集会では、5月24日(木)10時30分から11時30分までの日仏整形交流をテーマにしたシンポジウムに、招待講演者のJean-François KEMPF先生に参加して頂きます。遠藤直人会長のご協力もあり、こちらも多くの方々の参加をお願いいたします。

本年も会員の皆様と共に、更なるSOFJOの発展に努めていく所存です。



●写真4a



●写真4b

## 第14回日仏整形外科合同会議報告

# 第14回日仏整形外科合同会議 (AFJO) を主催して

平成29年5月12日(金)、13日(土)に日光東照宮・社務所にて第14回日仏整形外科合同会議 (AFJO) を開催させて頂きました。高橋和久先生(千葉大学整形外科前教授、写真1)との共同議長ということで、会員の皆様のご支援のみならず母校のバックアップも加わり、盛会に終了することができましたので、ここにご報告させて頂きます。

私は、2005年の京都で開催された第8回から参加しておりますが、最近では、4年前に京都、2年前にサン・マロで開催され、バンケットはそれぞれ清水寺、モンサンミッシェル内で行われております。そして、この流れを受け継ぎ、今回、私が栃木県出身ということもあり、当院の白土先生の勧めもあり、日光東照宮で行うことにしました。学会参加者はフランス人医師20名を含めての総勢152名で、日光という比較的アクセスしにくい場所でしたが、これまでとほぼ同程度の参加人数となりました。

日光の金谷ホテルを11日・12日と貸し切って、学会参加者のメインの宿泊所としました。このホテルは、創業明治6年の日本最古の西洋式リゾートホテルで、ヘレンケラー、アインシュタインなども宿泊したこともあり、その趣あるたたずまいがフランスの先生方には好評だったようです。学会場となった社務所は、東照宮の敷地内にありまして、丹下健三氏が設計した外観が和風の鉄筋の建造物です。室内から見ると高い天井を裏打ちする木の優雅なデザインを見ることができ、会場の壁は全面ガラス張りで、カーテンがなくともスライドには支障ない程度の明るさで、会場に居ながらにして日光の美しい新緑を満喫していただけたのではないかと思います(写真2)。また、日光東照宮は、今年の3月に平成の大修理を終えたばかりで、学会の合間に参拝を楽しまれた方も多かったようです。

学会のテーマは、「固定観念からの脱却：Challenging

fixed idea」としました。フランス人の自由な発想から生まれたReverse shoulderやDual-mobility cupは有名ですが、それぞれ日本に導入されて間もないこともあり、フランスからの豊富な臨床成績の発表は大いに参考になったことと思われます。個人的には、当院で行っている人工股関節の前方進入法も、ある意味では、固定観念からの脱却から生まれた方法です。私自身の思い入れのある言葉でもあったわけです。

特別講演として、小林晶先生とHernigou先生に日仏の歴史的交流について講演を頂きました。お二人とも整形外科の範疇を超えた壮大なお話であり、日仏の文化的交流を一層深められたと思います。座長をお願いした山室隆夫(京都大学名誉教授)、山内裕雄先生(順天堂大学名誉教授)には、お二人の話をう

まくまとめて頂き、即興で作成したスライドなども交え最後はジョークで会場を盛り上げて頂き、この4人の先生にお願いして本当に良かったなと思いました(写真3)。

パネルディスカッションは、脊椎変形手術と広範囲脛骨断裂の2つのセッションを行いました。脊椎変形は大鳥精司先生(千葉大学整形外科教授)にお世話頂き、フランスからVital先生、Obeid先生を、広範囲脛骨断裂は菅谷啓之先生(船橋整形外科病院)にお世話頂き、フランスからGrimberg先生、Kishi先生をお招きし、それぞれの分野で高名な日本人の先生方との実りある熱い討論ができました。特に、Vital先生、Obeid先生の招聘には、竹本充先生(京都市立病院)にお世話頂き、深謝致します。

共同議長である高橋先生は、私が千葉大学整形外



●写真1 高橋和久先生



●写真2 学会会場内



●写真3 特別講演後

科に入局した当時の指導教官という関係ですが、その先生から私に、「先生も何か話をしろよ。僕が座長やるから。」という勧めもあり、私も20分ほどのお時間を頂き、「My first visit to France changed my life」というタイトルの講演をさせて頂きました。内容は、2004年に初めてフランスを訪問し、そこで見た手術法(人工股関節の前方進入法)を取り入れてから、それまでの地味な生活が一変し、学会的にも脚光を浴び、多忙な生活が始まったというものです。まじめな話ばかりではと思い、最後のスライドに、その代償として家庭の地位は下がり、ついには家族写真から消え、撮影専門になってしまったという落ちを入れましたが、幸いにも笑いに包まれ講演を締めくくることができました。これは、飯田哲先生(松戸市立病院)の受売りで、「社会的地位+家庭的地位=一定」、という「地位保存の法則」をそのまま引用したものです。学会期間中は、いろいろと不手際もあり、後悔することも多かったのですが、この講演だけは自分としては満足のいくもので、やって良かったなと思いました。

学会前日の会長招宴、初日の全員懇親会、学会終

了後の小宴会と三晩連続の宴会を行いました。白土先生によるワインセレクションが基盤にあったこともあり、どの会も盛会でした。全員懇親会の余興としての雅楽は(写真4)、フランスの先生方も最初は珍しそうに楽しんでくれたのですが、平坦な調子の音楽が20分も続きますと、後半は会場の雰囲気も盛り下がりが(写真5)、私としては早く終わってくれの一心でした。起死回生の飯田寛先生の乾杯のご挨拶を契機に、会場は盛り上がりになり、その後も終始和やかなムードとなりました(写真6)。予想外に盛り上がったのは、学会終了後の小宴会でした。予定では、当日帰国できないフランスの先生方と当院スタッフで慰労会的な雰囲気、こぢんまりと行うつもりでしたが、意外に多くのフランスの先生方が参加されることとなり、急遽、山室先生や田中千晶先生(京都市立病院)にもご参加頂き、総勢63名の大会となり(写真7, 8)。当院スタッフによるピアノとバイオリンの素人演奏会が好評で、これをきっかけに飛び入り参加のSedel先生やDelaunay先生がプロ顔負けのピアノを奏でるや、ダンスを始めるご夫妻もいるやで、大いに盛り上がり

ました。因みに、二次会では金谷ホテルのビールサーバーは空になったそうです。

学会の準備は、指名を受けてからの2年半は、何度も打ち合わせの会議を開き、盛会にしようと努力してきましたが、いざ本番となると思わぬトラブルもありましたし、最終日の小旅行は天気に恵まれず、華厳の滝も滝のてっぺんは霧に隠れてしまうなど決して良い景観ではありませんでした。しかし、最終日の小宴会では、田中千晶先生のスピーチ(フランス語)で、「こういう景観を楽しむ心こそ日本文化の神髄である」とのお言葉を頂き(後で田中先生にお聞きしてスピーチの内容を理解したのですが)、これを聞いたとたん、それまでのトラブルや後悔など

自分の中でくすぶっていたものが一掃され、何とも言えない暖かい気持ちに包まれたことは、生涯忘れ得ぬ瞬間となりました。このようにたくさんの方の暖かなお心遣いやご協力もありまして、無事に第14回AFJOを終了することができました。改めまして、会員の皆様に御礼を申し上げたいと思います。貴重な経験をさせて頂きまして、本当にありがとうございました。



●写真4 全員懇親会での雅楽



●写真5 雅楽演奏後半の退屈そうな聴衆



●写真6 笑顔で乾杯



●写真7 学会終了後の小宴会



●写真8 学会終了後の小宴会



## Organizing Committee

<b>Congress president</b>	Kazuhisa Takahashi, Kazuhiro Oinuma
<b>Secretary general</b>	Kazuo Kaneko
<b>Members</b>	Yoshihiro Semoto, Toshikazu Kubo, Yuji Yasunaga, Kenta Fujiwara, Kiyoshi Aoki
<b>Advisory Members</b>	Akira Kobayashi, Toshinobu Onomura, Takao Yamamuro, Toyonori Sakamaki, Yasuo Yamauchi, Katsuo Shitoto, Toshio Oi, Tatsuo Ito, Tetsuya Tamaki, Nobuo Matsui, Hideshige Moriya, Hiroyuki Shindo

### Local Organizing committee

**Chair** Kazuhisa Takahashi, Kazuhiro Oinuma

**Members** Akira Kobayashi, Kazuo Kaneko, Yoshihiro Semoto, Toshikazu Kubo, Yuji Yasunaga, Kenta Fujiwara, Kiyoshi Aoki

### Scientific Committee

**Chair** Toshikazu Kubo

**Members** Kazuhisa Takahashi, Yoshitada Harada, Hiroyuki Sugaya, Seiji Ohtori, Chiaki Tanaka, Junichi Nakamura

### Fund-raising committee

**Chair** Hirotsugu Ohashi

**Members** Akira Kobayashi, Yoshihiro Semoto, Toshinobu Onomura, Kenta Fujiwara

### Financial committee

**Chair** Hideaki Shiratsuchi

**Members** Hirokazu Iida, Kenta Fujiwara

### Social program committee

**Chair** Yoshihiro Semoto

**Members** Yuji Yasunaga, Kiyoshi Aoki, Satoshi Iida

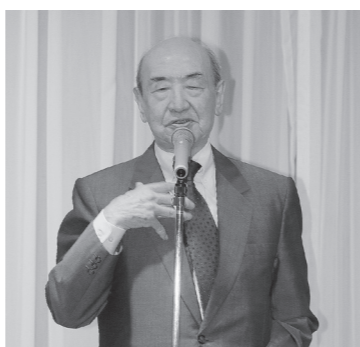
### PR committee

**Chair** Kazuo Kaneko

**Members** Yasuhiro Homma, Satoshi Iida, Yoko Miura, Tatsuya Tamaki

## Congress at a glance

	Friday, May 12	Saturday, May 13
8:00		
9:00	Opening Remarks 8:30 - 8:40 Oral Session 1 <b>Lower Extremity</b> 8:40 - 9:20	Panel Discussion 2 <b>Surgical Options for Cuff Deficiency and Other Difficult Shoulder Disorders</b> 8:30 - 10:00
10:00	Oral Session 2 <b>Hip 1</b> 9:30 - 10:40	Oral Session 5 <b>Upper Extremity</b> 10:10 - 11:10
11:00	Oral Session 3 <b>Hip 2</b> 10:50 - 11:50	Oral Session 6 <b>Knee</b> 11:10 - 12:20
12:00	Luncheon Seminar 1 Speaker : <b>MICHEL P BONNIN</b> 12:00 - 13:00	Luncheon Seminar 2 Speaker : <b>Sébastien LUSTIG Olivier GUYEN</b> 12:30 - 13:30
13:00	Panel Discussion 1 <b>Spine Deformity</b> 13:10 - 14:40	Closing Remarks 13:30 - 13:40
14:00		
15:00	Oral Session 4 <b>Spine</b> 14:50 - 15:50	
16:00	Afternoon Seminar Speaker : <b>Luc Kerboull</b> 16:00 - 16:30	
17:00	Special Lecture Speaker : <b>Akira KOBAYASHI Philippe Hernigou</b> 16:30 - 17:30	
18:00	Presidential Address <b>Kazuhiro Oinuma</b> 17:30 - 17:50 Poster Session 17:50 - 18:20 Business Meeting 17:50 - 18:20	
19:00	Welcome Reception 18:30 - 20:30	
20:00		



## 日仏整形外科学会交換研修帰朝報告

大阪医科大学整形外科  
岡本純典先生

### 緒言

2017年4月から約3か月間、日仏整形外科学会交換研修の機会に恵まれ、幸運にもLyonとParisの病院で貴重で且つ有意義な研修生活を送ることができました(表)。本学会役員と会員の先生方に深甚なる感謝の意を表し、ここに帰朝報告をさせていただきます。この項を読んでいただける若い研究者の少しでもお役に立てれば嬉しく思います。この機会により得られた人とひととのつながりを大切に、本学会の発展に影ながら尽力させていただきたいと考えています。

### 応募の動機

1999年、大阪医科大学整形外科学教室に入局した私は、中島幹雄(前)准教授(現、大植会葛城病院長)の薫陶を受け、人工関節置換術(膝、股)の分野の診療を志すようになりました。症例を積み重ねると予期せぬ結果に

直面することがしばしばあり、教科書的な方法では善処できないことも少なくなく、既知の知見に懐疑的な念を抱くことが多くなってきました。私が、論文投稿前に先行研究の関連論文を濫読していた頃<sup>1)</sup>、France人から発信された印象的なひとつの論文に遭遇しました<sup>2)</sup>。これをきっかけにProfesseur Séastien LUSTIGの論文を意識するようになり、気が付くと既存の概念にとらわれない独創的且つ逆説的な発想を得意とするFranceのnationalityやphilosophyに魅力を感じるようになっていました(写真1)。Franceの整形外科には何処となく米国のそれとは一線を画し、guidelineに寄り添いがちな現在の日本の医療とも異なった独自性を感じます。整形外科学の歴史に名を刻んだJudetやDuchenne、Dupuytren、Ollier、Malgaine等々、彼等の名はこのことを象徴しているように思っています。海外発信される論文や学会の整然と並んだ結果に釈然としない今の私にとって、Franceの文化に触れ、彼らが何を考えているのかを目の当たりにすることが、今後の医師とし

表. 研修先の特徴

	症例の比率 THA : TKA	THA	TKA/UKA
		DAAと後方侵入の比率 特徴	特徴
Albert Trillat (Lyon)	1 : 1	1 : 1 DAAは全例DM	骨切り後TKAも豊富 <sup>4)</sup> Robotic assisted UKAもある <sup>5)</sup>
Ambroise-Paré (Paris16区近郊)	5 : 1	1 : 2 全体の8割がDM	適応拡大の傾向 半拘束型も積極的に使用
Henri-Mondor (Parisの郊外)	3 : 1	1 : 3 症例を選んでDM	教科書的なPS-TKA 皮切の大きさも寛容

DAA, direct anterior approach; DM, dual mobility cup

上記は私の研修期間中に限られた内容ですので、参考の一助に留めていただきますと幸いです。

でのidentity、哲学形成に寄与する重要な機会になるに違いないと考え応募しました。これには当教室の根尾昌志教授のご快諾や藤原憲太講師、大槻周平講師をはじめとする教室員の尽力ゆえに成り立っていることは言うまでもありませんし、テロや大統領選前の欧州情勢の不安もありましたが、悩みの末に家族を帯同させての渡仏を選びました。西脇徹先生(慶応義塾大学病院)や水野直子先生(市立豊中病院)、本間康弘先生(順天堂大学医学部附属順天堂医院)のご厚意に甘え、研修先や住まいが滞りなく決まったことは本当に幸運だったと思って居ます。とりわけ、本間先生にはParisの研修先や生活の詳細に至るまできめ細かに助言頂きました。感謝申し上げます。



●写真1 Professeur Séastien LUSTIG

### Centre Albert Trillat, Hôpital de la Croix-Rousse (Lyon) 2017年4月から1か月

Professeur Séastien LUSTIGを追い、最初の研修先を選びました。Professeur Philippe NEYRETが主宰のLyon Knee Schoolで、世界中からfellowが集まってきました(写真2)。Professeur LUSTIGに師事し、Dr. Romain GAILLARD<sup>3)</sup>やDr. Yannick HERRY<sup>4)</sup>をはじめとした多くの同世代の紳士的な心優しい医師に恵まれました。親日派の彼らのお蔭で生活面での不安が軽減され、これから続く研修生活の始まりに弾みがついたのは言うまでもありません。常日頃から先進技術を追い、貪欲に知見を発信しようとする彼らの姿勢にとっても刺激を受けました。

圧巻は、Professeur LUSTIGが執刀する同種膝蓋腱を用いたTKA後の伸展機構再建の手術です<sup>5)</sup>。彼の手技とその手際良さは、少なくとも私がこれまでに知る医

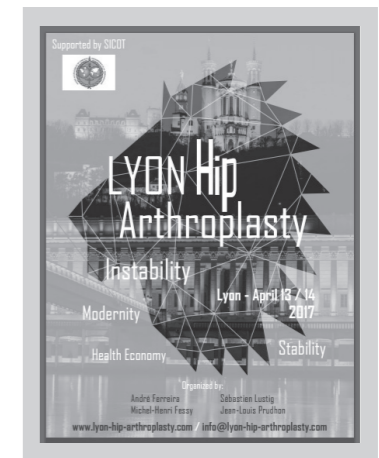
師と比較しても桁違いに次元が違います。覚悟を決めた手術には感動を覚え、今でも忘れることができません。



●写真2 Centre Albert Trillatのfellowと私

### Lyon Hip Arthroplasty 4月中旬の2日間

Cité Internationaleで行われた学会(<http://www.lyon-hip-arthroplasty.com>)です(写真3, 4)。Lyonが股関節疾患に対しても世界を牽引できることが顕示されたと思っています。話す言葉は違っても何処となく股関節外科医の共通言語としての世界基準と、且つ随所にFrance人の計らいを感じた居心地のよい学会でした。口演の殆どはFrench Englishで且つ、英仏語のdouble slideという配慮も何処となく嬉しく思いました。この国のTHAのvectorが間違いなくDAAとdual mobility cupに向きつつあるものの、このapproachやconceptでもって不可避の合併症があること、この手術が万能でないことを示す発表も多く、THAの合併症対策は永遠の課題であることを再認識致しました。



●写真3 Lyon Hip Arthroplasty





●写真4 Lyon Hip Arthroplastyの会場Cité InternationaleにてLustig先生の粋な計らいにより、organizing and scientific committee の先生方と一緒にすることができました。私を丁寧に紹介し、温かく迎え入れてくださいました。この研修中の最も感動的な瞬間のひとつです(写真左からLustig先生とAndré FERREIRA先生、写真右からJean-Louis PRUDHON先生とJacques CATON先生)

## ■ Hôpital Ambroise-Paré (Paris 16区近郊Boulogneの森の近く) 5月から1か月

「優しい外科医」と評されるAmbroise Paré(1510～1590年)の名を付した基幹病院です<sup>6)</sup>。私が初の日本人医師らしく、とても親切に接していただくことができました。肩や股関節、足の外科疾患、骨関節感染の症例を多く感じます。肩関節疾患に造詣の深いProfesseur Philippe HARDYの圧倒的な存在感と推進力のみならず、洗練された手術手技を持つProfesseur Thomas BAUERは、基本手技に忠実、且つ沈黙の手術を貫きます。専門性が多岐に渡る医師は比較的多いのですが、彼ほど高水準で高難度の手術を執刀できる医師はいないと思います。Cementless stemの抜去時に粉碎した著しい骨粗鬆症を伴う大腿骨骨折に対しても、表情を変えることなく周到に準備された大腿骨全長の同種骨とプレート固定を併用し、独自の方法で外転機構再建を追加し、絶妙の脱臼抵抗性を得た瞬間には胸の高鳴りを覚えました。

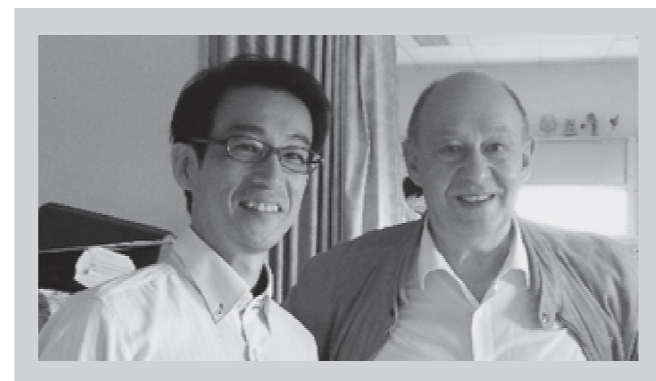
It was really a great pleasure to welcome you. I hope you spent a lot of time in the OR to see our "true life". Keep the network please!

上記は、研修後に届いたProfesseur BAUERからのmailの一部ですが、Ambroise Paré分身かと思わせる彼の人柄が滲み出ています。全体的に日本の忙しさに似た毎日でしたが、同世代のDr. Jean Sebastien BERANGER<sup>7)</sup>

やDr. Gregoire CIAIS<sup>8)</sup>らと時間を共にすることが多く、France人ならではの逆説の論理や整形外科魂を垣間見たことは、私にとってかけがいの無い財産になっています。

## ■ Hôpital Henri-Mondor (Paris郊外) 5月下旬から1か月

Professeur Philippe HERNIGOUの仁徳と、その懐の深さゆえ、世界中から多くの整形外科医が研修に来ています(写真5)。骨壊死に関する濃縮自家骨髄血移植術に代表されるstem cell therapyが盛んです<sup>9)</sup>。ご紹介下さった本間先生の知名度が非常に高く、どの医師も優しく接して下さいました。感謝申し上げます。主にDr. Guillaume MIROUSE<sup>10)</sup>とDr. Francois ROUBINEAUに師事しましたが、conferenceには学会さながらの緊張感があり、質疑も容赦なく厳しく、一流の整形外科医が育成されることにも納得できます。外傷患者も多く、予定手術以上に緊急手術が多くなる日もあります。どの手術も新規のインプラントや器械には拘らず、古典的な既存の手術器械を用いた基本手技を再確認できたことは重要な機会だったと思っています。



●写真5 Professeur Philippe HERNIGOUと私

## ■ 18th EFORT Congress (Vienna, Austria) 5月下旬の3日間

欧州、中東諸国の医師を中心とした整形外科全分野に渡る最新の知見が網羅された国際学会(<https://www.efort.org/vienna2017/>)です。日本人の演題は全体の約6%(174演題)を占めます。英語が母国語と異なる演者も少なくなく、AAOS(American

Academy of Orthopaedic Surgeons)とは違った趣と親しみやすさを感じます。私の演題はposter presentationでしたが、英会話を主とする生活を1か月も続けていることもあり、この学会ならpodiumやその質疑も決して難しくないと錯覚に陥ってしまいます。若手医師には早いうちから海外で研鑽を積んでもらい、こういった意志を持つ医師に対しては我々中堅も積極的に支援すべきと改めて思いました。

## ■ 帰国して

教室員の皆さまに温かく迎え入れてもらうことができました。久々の日本語でのconferenceや手術、患者さんの診察等々、すべてがとても新鮮です。研修中、頻発するテロや大統領選の影響もありますが、日本が如何に安全で恵まれているがよくわかりました。

少なくとも私の抱くFrance人と実際は大きく乖離していました。彼らは、伝統を尊重し、何事にも慎重で、流行に振り回されません。歴史的実績と理論に裏打ちされたことのみを真摯に実践し、ひらめきや勘に頼る医師はいません。彼らが得意とする逆説や一見、奇抜と思われる発想は、これらのことが基盤となり成り立つものと思います。私にとって、今後も得られた知見と成果の世界発信こそが社会貢献であり、今回の御恩に報いることと感じました。今後とも宜しく願い申し上げます。

## ■ 謝辞

このような素晴らしい機会を与えてくださった日仏整形外科学会の役員の方、西脇徹先生、水野直子先生、本間康弘先生に改めて深甚なる感謝の意を表します。また、Desroches飛鳥先生(Hôpital Ambroise-Paré)とSecrétaire scientifiqueのFlorence BONDOUX様(Centre Albert Trillat秘書)に深謝いたします。

この度の研修をご快諾頂いた大阪医科大学整形外科学教室の根尾昌志教授をはじめ、藤原憲太講師、大槻周平講師、関節班の先生方、同門会の先生方と教室員の先生方に感謝申し上げます。かけがいのない貴重なFranceでの生活を共にできた妻子への感謝の念も堪えません。

## 【参考文献】

- 1) Okamoto Y, Nakajima M, Neo M, et al. Capsular release around the intercondylar notch increases the extension gap in posterior-stabilized rotating-platform total knee arthroplasty. *Knee*. 2016;730-5.
- 2) Lustig S, Scholes CJ, Stegeman TJ, et al. Sagittal placement of the femoral component in total knee arthroplasty predicts knee flexion contracture at one-year follow-up. *Int Orthop*. 2012;1835-9.
- 3) Fiquet C, Neyret P, Lustig S, et al. Reconstructing the chronically disrupted knee extensor mechanism after total knee arthroplasty: Hourglass variant of the original partial allograft technique. *Orthop Traumatol Surg Res*. 2017;1197-1200.
- 4) Gaillard R, Lustig S, Neyret P, et al. Total knee arthroplasty after varus distal femoral osteotomy vs native knee: similar results in a case control study. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2017;3522-9.
- 5) Herry Y, Neyret P, Lustig S, et al. Improved joint-line restitution in unicompartmental knee arthroplasty using a robotic-assisted surgical technique. *Int Orthop*. 2017;2265-71.
- 6) Desroches A, Bauer T, Hardy P, et al. Suprascapular Nerve Block Versus Interscalene Block as Analgesia After Arthroscopic Rotator Cuff Repair: A Randomized Controlled Noninferiority Trial. *Arthroscopy*. 2016;2203-9.
- 7) Beranger JS, Maqdes A, Beaufils P, et al. Bone mineral density of the coracoid process decreases with age. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2016;502-6.
- 8) Ciais G, Bauer T, Hardy P, et al. Bony defects in chronic anterior posttraumatic dislocation of the shoulder: Is there a correlation between humeral and glenoidal lesions? *Eur J Orthop Surg Traumatol*. 2016;581-6.
- 9) Hernigou P, Dubory A, Flouzat Lachaniette CH, et al. Stem cell therapy in early post-traumatic talus osteonecrosis. *Int Orthop*. 2018 [Epub ahead of print]
- 10) Mirouse G, Nourissat G. The split portal: Description of a new accessory posterior portal for arthroscopic shoulder instability procedures. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2016;625-9.

## フランス手関節鏡研修

ベルランド総合病院整形外科  
蒲生和重先生

平成29年交換研修プログラムで、フランスで手関節鏡を中心とした手外科研修を受けてきましたので報告させていただきます。私は手関節鏡というものが今後の手外科医にとって必須の手技であると思い、世界的に有名な手関節鏡外科医Mathoulin先生のもとで研修を受けたいと以前より思っていました。金子会長は、Mathoulin先生が主催するフランス手の外科学会へ参加し直接交渉すること勧めていただきました。いきなり直接交渉に行くのはとてもハードルが高いと思いましたが、これも何かのチャンスと覚悟を決め渡仏する準備を始めました。当初フランス側へのコンタクト及び相談役として、順天堂大学の手外科医の内藤聖人先生を紹介していただいたのですが話は進まず不安は募る一方でした。2016年12月、パリで開催されたフランス手の外科学会の会場でようやく内藤先生と初めて会うことができこれまでの不安は一掃されました。このフランス手の外科学会で、内藤先生のおかげでその後お世話になるMathoulin先生やGilbert先生に挨拶することができました。Mathoulin先生は研修を快諾してくださり、2017年4月末にストラスブールで行われるIRCAD FRANCEの手関節鏡コースに参加するように指示をくださいました。フランス手の外科学会に参加することにより、フランス手の外科の雰囲気を感じることができ、また参加していた日本人の先生方とも知り合うことができ4月から始まる手外科研修に向けてとてもよい機会となりました。

初めは、Mathoulin先生がいるInstitut de la Mainで3ヶ月間研修して沢山のことを吸収してこようと思って

いたのですが、せっかくIRCAD FRANCEでストラスブールに行くのならストラスブール大学のLivernaux先生や南仏ToulonのLevadoux先生のところに1週間ずつ研修させていただこうと渡仏直前の3月に思いつき、内藤先生に相談をしてみました。内藤先生は多忙であるにも関わらず、すばやく関係各所にコンタクトを取ってくださいました。

家族5人でフランスに行くことにし、まず住居をどうするかで悩んだのですが、結局長男の日本人学校のバスポイント近くでさらにInstitut de la Mainと同じ16区に築90年のアパートを借りました。家探しは、家族全員が安全に満足な生活ができる物件を選ばねばならず本当に苦労しましたが、最終的にミラボー橋に近いセヌ川沿いの物件で景色や治安がよく、生活に非常に便利な場所を選ぶことができました。

### Institut de la Main

Institut de la Mainは、Raoul Tubianaによって1972年に設立されたprivate clinicです。1985年からClinique Franklin、1995年Clinique Juvenet、2016年9/1から現在のClinique Bizetに移りました。Alain Gilbert先生とChristophe Mathoulin先生とCaroline Leclercq先生といった古くからのメンバーがいまだに現役で活躍されています。Clinique Bizetは16区の東端に位置しており、エトワール凱旋門とエッフェル塔のちょうど中間地点という絶好のロケーションにあるわずか180床の外科系の病院です。Institut de la Mainはその一部門です。

Institut de la Mainには常にレジデントが3人から4人おり半年ごとに入れ替わるシステムでした。レジデントの仕事は手術場と外来の手伝いです。レジデントは、オペ場で直介ナースと手術助手を1人で2役やるというなかなか大変そうなものでした。レジデントが直接手術をすることができないためか、フランス人にあまり評判がよくなくレジデントの8割が近隣諸国からの外国人でした。Institut de la Mainのレジデント係はLeclercq先生がされており、私も他のレジデントと同じようにプログラムを組んでくださいました。private clinicということもあり、全体でのカンファレンスなどありません。過去の報告にもありましたが、同じ疾患に対してそれぞれが独自の方法で信念をもって手術をされます。研修している側としては、色々な方法が見られてとてもありがたい状況でした。

Mathoulin先生は、週末にコルシカ島で生活することが多く、週の半分ぐらいしかClinique Bizetにいないのですが、それにもかかわらず多くのMathoulin先生の関節鏡手術を見ることができました。信じられないぐらい手術が早く、驚きました。午前中だけで7~8件が普通です。よく見た手術はSL損傷のdorsal capsuloligamentous repairとSLAC wristに対する手術やCM関節症に対するinterposition arthroplastyです。部分手関節固定も関節鏡でやられていました。Mathoulin先生の手術には必ず専属アシスタントナースがついて、すばらしいコンビネーションで手術が進



●写真1 左から木下真由子先生、Mathoulin先生と専属アシスタントナース

んでいきます(写真1)。その他にGilbert先生(写真2)の小児整形外科手術やLeclercq先生(写真3)のspastic handやデュピュイトラン拘縮の手術など沢山見学させていただきました。



●写真2 Gilbert先生とClinique Bizet病院前で



●写真3 Leclercq先生とClinique Bizet手術室で

## IRCAD France, Hand Surgery Department Strasbourg University Hospital

4月末にStrasbourgで行われたIRCAD FRANCEの手関節鏡コースに参加しました。そこで使用するカダバーはどれも非常に質が良かったです。しかも施設が教育専用になっており、プログラムもよく練られており、大変充実したコースでした。all Englishとされていましたが、やはり場所はフランス、フランス人が二人集まるとフランス語のディスカッションが始まってしまい、私1人意味が分からないという状況が数回ありました。IRCADのCourse DirectorがMichel Levadoux先生でしたので、1週間程度のToulonでの研修をお願いしたところ、Facultéで来られていたMarseilleのPhilippe Samson先生とAndréGay先生にも声をかけていただき、6月にToulonとMarseilleで研修させてもらえることになりました(写真4)。

IRCADの後、Philippe Livernaux先生のストラスブール大学手外科を1週間訪問しました(写真5)。大学病院ですので非常にアカデミックで教育的な職場環境でした。若手医師たち(人気の研修先のようにフランス人も多ですが、近隣諸国から沢山勉強に来ています)が目を見せながら臨床に携わっている姿が印象的で

した。手術場では、私の見たかった症例がいくつも見られ、また有名なロボット手術も見学できました。Livernaux先生には大変よくしていただき、日々の送迎から最後には先生のお宅で奥様の作るフレンチディナーまでごちそうになりました。Livernaux先生は非常に情熱的で自身の論文を200本出すのを目標にされており、若手医師に論文作成の指導を一生懸命にされておりました。無駄な時間は一切なくひたすら仕事をされている印象でした。オンとオフをはっきり区別されている生活で、こうあるべきかと感心してしまいました。Livernaux先生から何度か“Don't waste your time, enjoy your life.”という言葉をかけてもらい、現在も時々思い出してやる気を出しています。



●写真5 Livernaux先生とロボット手術が行われる大学病院前で

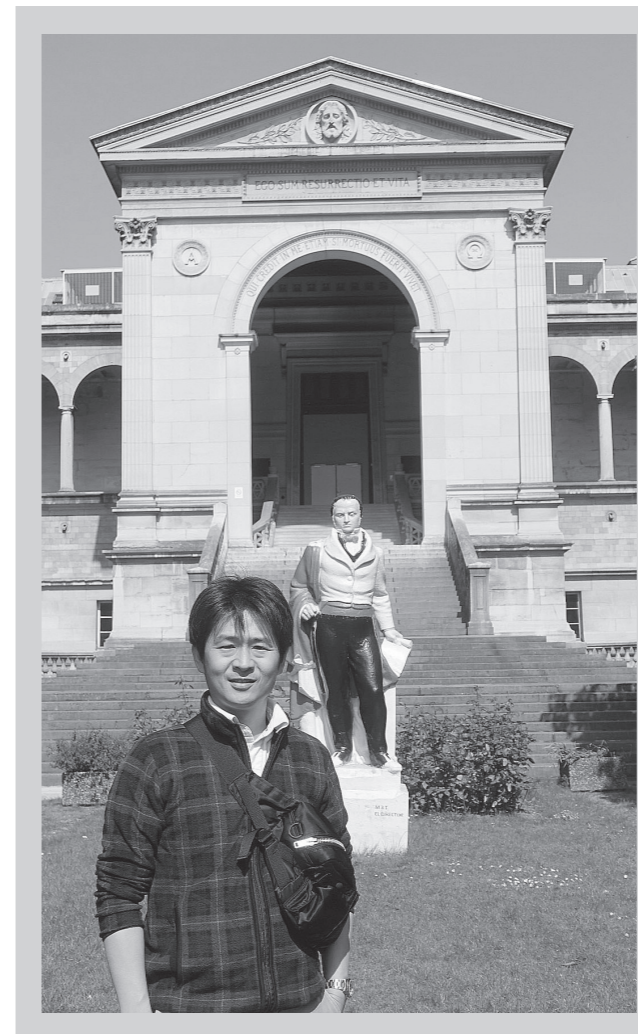


●写真4 IRCAD FRANCEにて、左からGay先生、Levadoux先生、Samson先生

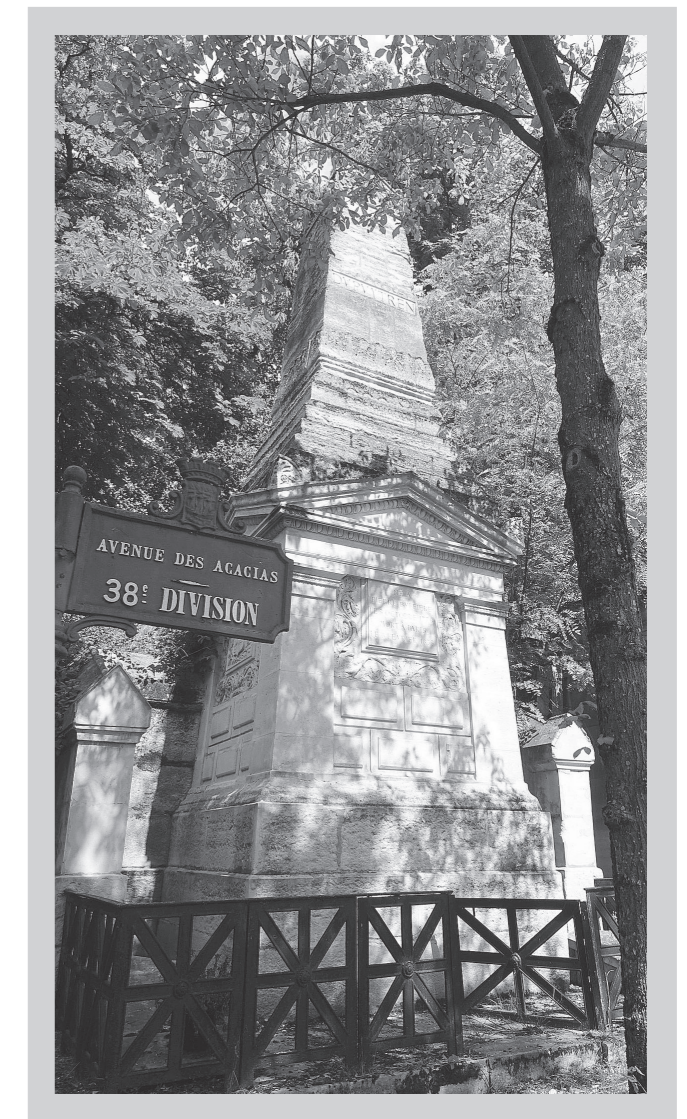
## Gillaume Dupuytrenの墓参り

5月10日から再びパリに戻りinstitut de la mainで研修を再開させましたが、5月中旬にLeclercq先生がバイクで転倒され左橈骨遠位端骨折を受傷されました。Mathoulin先生がロッキングプレートを用いて手術されました。その後は1ヶ月間Leclercq先生のオペはキャンセルとなり少し時間に余裕ができてしまったため、Dupuytren先生の像を見にHôtel-Dieuに、墓参りにペールラシェーズ墓地に行ってきました。Dupuytren先生の像は色が塗られておりインターネット上で調べてみるとシーズンによっていろいろアレンジされているようでした(写真6)。偉人の像に色を塗っていくなんて

日本人の感覚からほど遠いと思いました。ペールラシェーズ墓地は甲子園球場の9個分の広さという広大な墓地で、有名人が眠っています。一般的な著名人の墓は訪れる人も多く献花があつたりするのですが、Dupuytren先生の墓地は一般的には有名ではなく整備されていない感じで少しさみしいものでした。しかしその墓の大きさ(高さ)は他を圧倒しておりさすがといった感じです(写真7)。アカシア通りのDivision38にありますので、今後行かれる方は参考にしてみてください。



●写真6 Dupuytren先生の像の前で Hôtel-Dieu



●写真7 Dupuytren先生の墓 ペールラシェーズ墓地

## 先輩、友人との再会

5月に、研修医時代から大変お世話になっている大阪母子医療センターの田村太資先生が学会に関連してパリまで激励に来てくださり大変うれしかったです。そして大学の同級生である大阪医科大学整形外科の岡本純典先生も同じ時期に交換研修に来ており、うちのアパートでお互いの家族を交えて食事ができました。同じような状況の二人でしたので、色々話がはずみ良い思い出となりました。

## 南仏ToulonとMarseilleへ、そして再びパリへ

6月の中旬に1週間、南仏のToulonとMarseilleで手外科研修を行いました。主にLevadoux先生を中心にプログラムを組んでいただきました。

ToulonとMarseilleで研修するために、Levadoux先生の勧めでその中間にあるBandolという小さな町にホテルを借りました。TERに乗って移動するのですが、パリと違った田舎のリゾートの雰囲気を楽しめました。

Levadoux先生は、Toulonにある Clinique St Rocheで

手外科医として活躍されている医師です。もともと軍医でとてもやりがいがあったが、家族の生活のために軍医を辞めて現在のprivate clinicで手外科医をしているとおっしゃっていました。Mathoulin先生と以前パリで一緒に仕事をされていたとのことで、現在もコルシカ島で時々一緒に仕事をしているそうで、同じコンセプトで治療をされており大変参考になりました。Levadoux先生は、80'sや90'sのロックが好きで、手術中にブルースプリングスティーン(しかも“Born in the U.S.A.”)やMetallicaなどを流されており、私の音楽的趣味にも合致しておりとても楽しく見学することができました。

Marseilleでは、IMMS(Institut de la Main et du Membre Supérieur)に所属するSamson先生とGay先生の手術も見学させていただきました。IMMSはMarseilleの手外科医が所属している組織で外来があります。手術は各自が都合のよい病院に患者を連れていき執刀されます。今回は、Gay先生がClinique JugeでSamson先生がClinique Velodromeで手術しているのを見学させていただきました。Clinique Velodromeは酒井宏樹選手が所属して活躍しているolympique de



●写真8 Mathoulin先生と最後の外来見学後に

Marseilleのホームスタジアム(Stade Orange Velodrome)の真横にある新築の病院でした。残念ながらすでに夏休み前ということで手関節鏡手術はなく、一般的な手外科手術のみでしたが、逆にそれが新鮮でいい刺激になりました。特にSamson先生の仕事量が驚異的で、朝の8時半から午後1時までで9件の手術をこなされていました。手外科なので小手術が多いとはいえ9件の手術を4.5時間で終わるのはなかなか大変かと思います。手術をするだけでなく、患者さんへの診療情報提供書から手術記録まですべてこの時間内に終了するというものでした。手術に迷いがなく無駄な動きがないので、全く急いでいる様子がなく私とdiscussionもしてくださいました。そして最も驚いたのが、Samson先生とGay先生が形成外科医であったことです！日本のイメージだと整形外科と形成外科では少し世界観が違うのですが、フランスの手外科医は整形外科と形成外科で違いは全くありませんでした。Samsonから聞いたところによるとフランスの手外科医は6割整形外科医で4割形成外科医とのことです。

そしてその後再びパリに戻り、6月下旬の帰国直前までMathoulin先生の手術と外来を見学させてもらい、大満足の大変充実したフランス手関節鏡研修を終えることができました(写真8)。Institut de la Mainには順天堂大学の手外科の木下真由子先生も私とほぼ同じ期間に留学にいられていましたので、いろいろ話し合いながら研修できましたのでとても楽しかったですし、助けてもらいました。6月後半に、木下先生のおかげでOberlin先生にも1度お会いすることができ、手術見学もさせていただきました。

## 最後に

私は手外科についてすでに何でもある程度できる状態でフランス研修を経験させていただきました。自分の知識を整理することや手関節鏡手術のスキルの向上を目的に渡仏しました。様々な先生方のおかげで目的は達成でき、現在ではフランスで経験したことを臨床で実践できています。また、家族5人で渡仏することにより、家族の絆がより強くなりました。手術と外来を見学して帰る日々でしたので、毎日家族そろって夕食をとることができました。そのため、家族と過ごす

時間が長く持て、妻とよく話すようになり子供たちとよく遊ぶようになりました。当時1歳半の娘が歩くのが楽しくて仕方ない時期でしたのでアパート内を歩き回り下の階の住人に1ヶ月に1回玄関まで来て激怒され、生きた心地がしませんでした。この危機もなんとか家族で乗り切りました。とにかく私の3ヶ月間の研修に付き合ってくれた家族に感謝しています。フランスでお世話になった先生方の多くは自分の家族の写真をわざわざ見せて話をしてくれました。(Mathoulin先生はすでにおじいちゃんなので孫の話ばかりでした！)フランス人の家庭を大切にする姿に感心し、私も仕事ばかりでなく家族の幸せを考えて生きていかなければならないと改めて考えさせられました。

最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださった、金子会長、大橋副会長、藤原先生、青木先生、金城先生、日仏整形外科学会役員・会員の諸先生方、そして色々お世話になりご面倒をおかけした内藤先生、本当にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 日本側・フランス側役員を紹介します

### 日本側役員

会長 金子 和夫  
 副会長 大橋 弘嗣  
 書記長 藤原 憲太  
 書記・会計 青木 清  
 幹事 安永 裕司  
       久保 俊一  
       本間 康弘  
       今井 晋二  
       飯田 哲  
 名誉会員 小野村敏信  
           小林 晶  
           坂巻 豊教  
 顧問 瀬本 喜啓

### フランス側役員

President Philippe Hernigou (Paris)  
 Secrétaire General Philippe Merloz (Grenoble)  
 Tresorier Philippe Wicart (Paris)  
 Membre de Bureau Philippe Liverneaux (Strasbourg)  
                   Alain Durandeu (Bordeaux)  
                   Jean Pierre Courpied (Paris)  
                   Jacques Caton (Lyon)  
                   Olivier Guyen (Lyon)



## 日仏整形外科学合同会議 (AFJO) 開催一覧

会期	開催地	議長
第1回 1990年11月12日	パリ	Régie C. Michel
第2回 1992年10月4日	京都	七川 歆次
第3回 1994年11月7日	パリ	Charles Picault
第4回 1996年4月13～14日	東京	菅野 卓郎
第5回 1998年9月17～19日	リヨン	Jean Pierre Courpied
第6回 2001年5月11～12日	大阪	小林 晶
第7回 2003年9月26～27日	グルノーブル	Philippe Merloz
第8回 2005年5月6～7日	京都	瀬本 喜啓
第9回 2007年9月14～15日	ニース	Jacques Caton
第10回 2009年5月28～30日	沖縄	大橋 弘嗣
第11回 2011年6月2～4日	ボルドー	Arain Durandeu
第12回 2013年5月30日～6月1日	京都	飯田 寛和、田中 千晶
第13回 2015年6月4日～6日	サン・マロ	Philippe Hernigou
第14回 2017年5月12日～13日	日光	高橋 和久、老沼 和弘
第15回 2019年9月13日～14日	ストラスブール	Luc Kerboull

## 日仏整形外科学会 (SOFJO) 開催一覧

会期	開催地	会長
第1回 1987年11月6日	神戸	七川 歆次
第2回 1988年10月29日	東京	七川 歆次
第3回 1989年11月11日	大阪	七川 歆次
第4回 1991年11月9日	大阪	七川 歆次
第5回 1993年10月30日	大阪	七川 歆次
第6回 1995年5月10日	大阪	七川 歆次
第7回 1997年11月1日	大阪	七川 歆次
第8回 1999年10月16日	大阪	山野 慶樹
第9回 2000年11月25日	横浜	坂巻 豊教
第10回 2002年10月12日	弘前	原田 征行
第11回 2004年11月6日	神戸	小野村敏信
第12回 2006年10月14日	京都	久保 俊一
第13回 2008年9月27日	東京	金子 和夫
第14回 2010年9月25日	広島	安永 裕司
第15回 2012年9月22日	東京	飯田 哲
第16回 2014年9月6日	福岡	塩田 悦仁
第17回 2016年11月25日～26日	岡山・直島	藤原 憲太、青木 清
第18回 2018年7月7日	大津	今井 晋二

あなたも  
フランス研修に!

日仏整形外科学会では、フランス整形外科学会（SOFECOT）との間で青年整形外科医の交換研修を行っております。来年度の研修条件、応募条件等は下記のとおりです。詳しくは下記のとおりです。

本交換研修プログラムの趣旨は、フランスとのコネクションを持たない青年医師に留学先を紹介し、渡航費用と滞在費の一部を援助するというものです。したがって、一度フランス留学を経験していただける先生は応募をご遠慮ください。

募 集 要 項

1) 募集人員	若干名（平成31年度）
2) 研修条件	<p>1. 滞在期間は3か月間を原則とする。 この間はビザが不要であるが、これを越して滞在する場合の延長に関するすべての手続き（語学学校入学手続きやビザ発給のための受け入れ承諾書の依頼等）は自分ですること。 1か月単位であれば複数の施設での研修も可能である。 7月、8月はフランスのパカンスシーズンになるので避ける方が望ましい。</p> <p>2. フランスでの滞施設は、希望する研修分野等に応じてフランス側の担当委員が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。</p> <p>3. 費用について a) 渡航費用の一部を日仏整形外科学会が援助する。 b) フランス滞在中の滞在費、食費および移動などの費用は原則として自己負担とする。</p> <p>4. 帰国後、仏語（英語でも可）と日本語での報告書の提出ならびに本会の総会での帰朝報告を行う。</p> <p>5. 本年度の研修開始時期は4月以降とする。</p>
3) 応募条件	<p>1. 応募者は日仏整形外科学会会員であること。 2. 応募者は日本整形外科学会専門医であること。 3. 原則として40才を応募年齢の上限とする。 4. 勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。 5. フランス語または英語を話すもの。</p>
4) 応募に必要な書類	<p>1. 日仏整形外科学会交換研修申請書（TXT、PDFをダウンロード・毎年様式が変わるので、注意する事） 2. 履歴書（大学卒業以降とする） 3. 応募の動機や抱負についての小論文 4. 日仏整形外科学会会員1名の推薦状—推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること。 5. 業績目録—主な発表論文5編以内（論文の別刷りは不要） 6. 渡仏承諾書 a) 大学の医局勤務者………教授の承諾書 b) 病院または施設勤務者………勤務している病院または施設の責任者の承諾書 (大学の医局人事により出張中の者は、教授の承諾書も要す。) 以上1. 以外の書式は自由であるが、すべてA4サイズに統一し、上記の順にならべて左上をホチキスで綴じること。また、<u>コピーを16部</u>を同封すること。</p>
5) 選考方法	<p>1. 第1次審査は書類選考とする。書類審査の結果は平成30年8月上旬に個別に連絡する。 2. 書類選考に合格したのものには平成30年9月下旬に大阪府済生会中津病院において面接を行う予定である。面接の時間は個別に通知する。 3. 合否は平成30年10月中旬に通知する。 4. 合格者は後日改めて仏文または英文の履歴書等、フランスでの研修に必要な書類が求められる。</p>
6) 申請締め切り	平成30年7月31日必着
7) 申し込み先	<p>日仏整形外科学会事務局 大阪府済生会中津病院整形外科内 〒530-0012 大阪市北区芝田2-10-39 大阪府済生会中津病院整形外科 Tel(06)6372-0333 Fax(06)6372-0339</p> <p style="text-align: right;">日仏整形外科学会 係 大橋 弘嗣</p>

フランス人研修医  
受け入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会（SOFECOT）との間で、青年整形外科医の交換研修を実施いたします。

受け入れ期間は原則として3ヶ月間ですが、1ヶ月でも2ヶ月でも結構ですので、是非会員の先生方のおられる施設で、フランス人整形外科医の研修を受け入れて頂きたくお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話す事が条件になっております。また日仏間の旅費はSOFECOTが支給し、日本での滞在費（宿泊費・旅費）は、日本側（原則として受け入れ施設が）負担することになっております。受け入れを承諾していただける場合は、受け入れ承諾書に滞在条件等をご記入いただき、係までご送付ください。

日仏整形外科学会 会長 金子 和夫  
日仏整形外科学会 交換研修係 金子 和夫  
連絡先：大阪府済生会中津病院整形外科

〒530-0012 大阪市北区芝田2-10-39  
TEL 06-6372-0333（お問い合わせは大橋弘嗣まで）  
LU7H-00HS@asahi-net.or.jp



# 第18回日仏整形外科学会 開催のご案内

(18ème Réunion de la Société Franco-Japonaise d'Orthopédie)

## 【第18回日仏整形外科学会 (SOFJO) の開催にあたってのご挨拶】

このたび第18回日仏整形外科学会 (SOFJO, Société Franco-Japonaise d'Orthopédie) を2018年7月7日(土)に、滋賀県大津市にごぞいます琵琶湖ホテルで開催させていただくことになりました。これまで整形外科領域における日仏交流に大きく寄与してきた日仏整形外科学会 (SOFJO) を担当させていただくことを、大変光栄に存じます。

日仏整形外科学会は1987年に創設されましたが、その記念すべき第一回学会は、現在 私が主宰させていただいている滋賀医科大学整形外科の初代教授七川勲次先生が開催されました。以降、日仏交流の礎を育てるといふ願いを込めて神戸、東京、大阪、京都と場所を変え、第7回まで七川勲次先生が開催されました。その後、日仏整形外科学会の発展は目覚ましく、また本学会を通して、フランスに留学された先生方のご活躍は枚挙に事欠きません。

大変残念なことです。七川勲次先生は平成26年4月にお亡くなりになりました。七川先生が創始されたと行っても過言ではない日仏整形外科学会を20年ぶりに滋賀医科大学整形外科で担当させて頂くことは、大変な栄誉であるとともに大きな喜びであります。今回のテーマはシンプルに「温故知新」として、本学会創設の志を温め、更なる発展の糧を知る場にしたいと考えております。

通常的一般口演演題、ポスター演題、英語口演演題に加えて、以下の特別講演、教育研修講演を予定しています。

### 【教育研修講演 1】

弘前大学 石橋恭之教授 「日本における膝関節手術の進歩」

リヨンのMichel Bonnin先生 「フランスにおける人工膝関節手術の進歩」

### 【教育研修講演 2】

千葉大学 大鳥精司教授 「日本における腰椎手術の進歩」

Colet先生 (滋賀医大にゆかりのあるフランス人整形外科医) 「フランスにおける小児整形外科」

### 【教育研修講演 3】

ストラスブールのPhillipe Liverneax先生 「フランスにおける手外科の最新情報」

リヨンのMichel Bonnin先生 「フランスにおける人工股関節の最新情報」

### 【特別講演】

パリのPhillipe Hernigou先生 「フランスからみた日仏整形外科学会の創成期」

小林 晶先生 「日本からみた日仏整形外科学会の創成期」

是非、多数の先生方にご参加いただき、創意に満ちたフランスの整形外科に触れるとともに、本学会創設の志を温め、更なる発展の糧を知る場にしたいと考えております。

滋賀医科大学整形外科 教授 今井晋二

# 第15回日仏整形外科合同会議 開催のご案内

(15ème Réunion de l'Association France-Japon d'Orthopédie, AFJO)

第15回日仏整形外科合同会議の開催地と日程が決まりました。

開催地はフランス北東部、ドイツとの国境近くのストラスブールです。

ストラスブールはアルザスの中心都市で、旧市街は1988年にユネスコの世界遺産に登録されています。旧市街にはノートル・ダム大聖堂がそびえ立ち、ストラスブールの小ヴェニスと言われる美しい地区であるプチット・フランスには16世紀と17世紀の木組みのハーフトンバーの家など建築が残っています。

【日程】 2019年9月13日(金)～14日(土)      【会長】 Luc Kerboull (Paris)



1



### 仏日・日仏整形外科学用語集

仏日整形外科用語集は森崎直木先生が編集を行われ、1989年に第1版が文光堂から出版されました。その後、1991年に改訂版が出版されましたが、森崎直木先生が亡くなられて以降、改訂されることなく現在に至りました。フランスの整形外科を知るためにはどうしてもフランス語の論文を読む必要がありますので、森崎先生の仏日整形外科用語集は非常に有用な辞書でした。しかし、医学の進歩に用語集も追いついて行く必要があると考え、日仏整形外科学会が中心となってその後の時代に於いて出現した新語を大幅に追加して新しい用語集の編集を行なってまいりました。最終的には単語数は仏日がおおよそ7000語、日仏はおおよそ6200語となりました。編集にあたりましては、日本整形外科学会学術用語委員会から綿密な指導をいただき、また最後には診断と治療社編集部のみなさんの度重なる校正を受けて2013年5月に出版の暁となりました。

購入希望がありましたら事務局までご連絡下さい。診断と治療社のホームページからでも購入していただけます。また、会員の方は学会ホームページからダウンロードもできます。是非ご活用下さい。

2

Welcome to So.F.J.O Homepage  
ようこそ日仏整形外科学会 (SOFJO) のホームページへ

日仏整形外科学会のインターネットホームページのアドレスは

<http://www.sofjo.gr.jp/>

です。  
是非のぞいてみてください。

- ・新着/NEWS
- ・沿革
- ・活動内容
  - 入会のご案内
- ・役員紹介
- ・共同研究
- ・交換研修
  - 交換研修帰朝報告
- ・会誌INFOS
- ・仏日・日仏整形外科用語集
- ・日仏整形外科協議会 (AFJO)
- ・AFJO (English)
- ・関連リンク集

3

#### 平成28年度会計報告

歳入の部	(単位：円)
会員年会費	1,232,000
用語集販売	0
企業寄附	330,000
会員寄附	50,060
広告料	440,000
預金利息	8
前年度繰越金計	2,839,683
計	4,891,751

#### 平成29年度事業費予算編成

歳入の部	(単位：円)
一般会員年会費	1,528,000
用語集販売	3,600
企業寄附	500,000
会員寄附	0
広告料	500,000
預金利息	3
前年度繰越金	1,800,932
計	4,332,535

#### 歳出の部 (単位：円)

日本人交換整形外科医奨学金 (2名)	
渡航費+滞在費(一部)	250,060
フランス人交換整形外科医奨学金 0名	0
第17回日仏整形外科学会開催補助金	1,000,000
日仏整形外科学会関連事業(表彰など)	0
日仏共同研究、研究助成金	0
インターネットホームページ維持管理費	365,479
日仏整形外科学会事務局費	
通信費	76,074
事務費	67,802
アルバイト代	240,000
会議費	19,682
旅費・交通費	193,682
印刷費	875,880
雑費	2,160
出金小計	3,090,819
次年度繰越金	1,800,932
計	4,891,751

#### 歳出の部 (単位：円)

日本人交換整形外科医奨学金	
渡航費+滞在費(一部) 100,000×4名	400,000
フランス人交換整形外科医奨学金	
滞在費(2ヶ月)+交通費 100,000×2名	200,000
SOFJO/AFJO開催関係費	1,000,000
日仏整形外科学会関連事業(表彰など)	20,000
日仏共同研究、研究助成	200,000
インターネットホームページ維持管理費	370,000
日仏整形外科学会事務局費	
通信費	90,000
事務費	80,000
アルバイト代	300,000
会議費	30,000
旅費・交通費	250,000
印刷費	850,000
予備費	30,000
出金小計	3,820,000
次年度繰越金	512,535
計	4,332,535



## これまでに交換研修に 参加された先生方

年度	氏名	所属
1990	稲毛 昭彦	大阪医科大学
1991	三輪 隆	帝京大学
1991	末松 典明	旭川医科大学
1992	星 忠行	弘前大学
1992	村上 元庸	滋賀医科大学
1992	久保 俊一	京都府立医科大学
1993	小浦 宏	岡山大学
1994	西川 真史	弘前大学
1994	岩崎 幹季	大阪大学
1995	石澤 命仁	滋賀医科大学
1995	安永 裕司	広島大学
1996	安間 基雄	順天堂大学
1996	寺門 淳	千葉大学
1996	仁平高太郎	慶応義塾大学
1997	益田 和明	岐阜大学
1997	金子 和生	山口大学
1998	山川 徹	三重大学
1998	岡本 雅雄	大阪医科大学
1999	清重 佳郎	山形医科大学
1999	川崎 拓	滋賀医科大学
2000	宮本 敬	岐阜大学
2000	藤井 一晃	弘前大学
2000	細野 昇	大阪大学
2001	鳥飼 英久	千葉大学
2001	久我 尚之	九州大学
2002	瀧川 直秀	大阪医科大学
2002	松峯 昭彦	三重大学
2003	柁原 俊久	昭和大学藤が丘病院
2003	矢吹 有里	慶応義塾大学
2004	和田 孝彦	関西医科大学
2004	久留 隆史	広島大学
2004	小山内俊久	山形大学
2005	小田 幸作	高槻赤十字病院
2005	松尾 篤	九州大学
2006	小室 元	阪和住吉総合病院
2006	城戸 顕	奈良県立医科大学
2006	早稲田明生	国際親善総合病院
2007	益田 宗彰	総合せき損センター
2007	黒住 健人	高知医療センター
2007	菊池 克久	滋賀医科大学整形外科
2008	上島圭一郎	京都府立医科大学
2008	水野 直子	行岡病院
2008	金澤 博明	順天堂浦安病院
2008	渡辺 千聡	大阪医科大学
2009	浅田 卓	関西医科大学
2009	山本りさこ	広島大学

## これまでにフランスから 交換研修医として 来られた先生方と研修施設

年度	氏名	研修病院名
1991	Philippe LIVERNEAUX	京都府立医科大学・ 広島大学
1991	Luis Michel COLLET	大阪医科大学・ 滋賀小児センター・ 福岡こども病院
1992	Frederic DUBRANA	福岡整形外科病院・ 九州大学
1992	Marc CHASSARD	慶応義塾大学・ 東海大学・ 札幌医科大学
1994	Philippe WICART	山口大学・金沢大学
1994	Philippe RENAUX	滋賀医科大学・ 岡山大学
1995	Michel NINOU	大阪医科大学・ 新潟手の外科研究所・ 広島大学
1997	Bernardo Vargas BARRETO	国立小児病院・ 岡山大学・ 国立大阪病院
1997	Sylvie MERCIER	大阪医科大学
1998	Jérôme COTTALORDA	大阪医科大学・ 福岡県立粕屋新光園
1999	Olivier CHARROIS	滋賀医科大学・ 京都市立病院
1999	Eric HAVET	滋賀医科大学
2000	Olivier CHARROIS	京都市立病院
2001	Laurent JACQUOT	福岡整形外科病院・ 慶応義塾大学・ 高岡整志会病院
2001	Alexandre ROCHWERGER	大阪医科大学・ 山形大学
2004	Brice LHARRBORDE	総合せき損センター・ 大阪市立大学
2007	Damien BREITEL	総合せき損センター・ 奈良県立医科大学
2007	Sybille FACCA	弘前大学・山形大学・ 京都府立医科大学・ 広島大学
2008	Thomas APARD	山形大学・ 大阪府立母子保健総合医療センター
2009	François LINTZ	京都市立大学

寄附金を頂戴いたしました。  
ご協力ありがとうございました。

ビーブラウン・エースクラブ株式会社

日本ストライカー株式会社

株式会社松本医科器械

松本アンプリチュード株式会社

有限会社永野義肢

### 編集 後記

2017年5月に日光東照宮で第14回AFJOが開催されました。前回(2015年)がサンマロ、モンサンミッシェルでしたので、開催地にかなり気を遣われたかと思いましたが、会長の高橋和久教授、老沼和弘先生および関係者の方々のご尽力により、フランスの先生のみならず日本の先生にとりましても魅力的な学会であったと思えました。学会開催に対してのご努力、ご苦勞などを老沼先生に書いていただきました。特別講演や発表は学術的レベルの高いものが多くプログラムの詳細を掲載したかったのですが、演題数が多く紙面の関係でプログラムの概要のみを掲載しました。

今回の交換研修帰朝報告は2名の先生からいただきました。それぞれ3か月という短い期間の中にもかわらぬ積極的に関心を持っていろいろな病院見学や学会参加をされており、すばらしい経験をされてきたことがよく分かりました。今後ますます日仏の交流が深まればと思います。

第18回SOFJOは2018年7月7日に滋賀医科大学の今井晋二教授を会長として滋賀県の琵琶湖ホテルで行われます。フランスから5名の先生が講演に来られ、さまざまな企画が用意されているようです。多くの先生方の参加をお待ちしています。また、本年の日本整形外科学会では5月24日に日仏合同シンポジウムが企画されています。併せてご参加をお待ちしています。

日仏整形外科学会はこれからも学会(SOFJO、AFJO)と交換研修を2本柱として活動してまいります。今後とも日仏整形外科学会の活動にご協力いただけますようお願いいたします。

(大橋弘嗣)



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 薬価基準記載

**サインバルタ**® カプセル20mg  
カプセル30mg

Cymbalta® デュロキセチン塩酸塩カプセル 創薬、処方箋医薬品<sup>※1</sup>  
注1) 注意-医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

©: 米国イーライリリー・アンド・カンパニー登録商標

製造販売元 [資料請求先]  
**シオノギ製薬**  
大阪市中央区道修町3-1-8  
医薬情報センター ☎0120-956-734

販売 [資料請求先]  
**Lilly 日本イーライリリー株式会社**  
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号  
電話 0120-360-605 (医薬情報問合せ窓口)  
<http://www.lillyanswers.jp>

CYM-KO-105A(A1) CYMP-A016(R0)  
審R1037 2016年4月作成



*hvc*  
human health care



患者様の想いを見つめて、  
薬は生まれる。

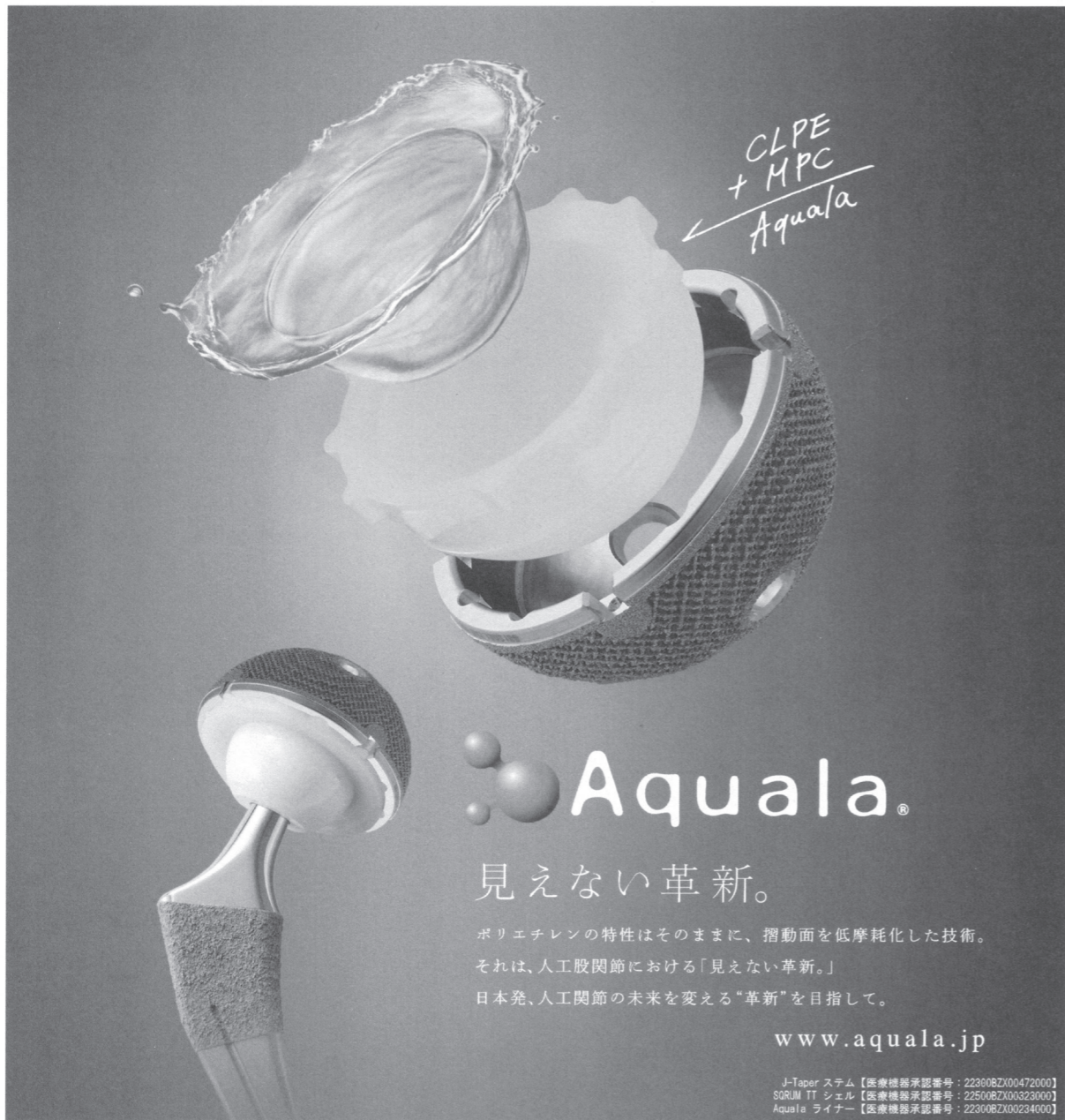
顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。  
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。  
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、  
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合いたいと思います。  
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。  
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。  
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



AFUTURE REI OF LIFE  
Global Business  
エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

THE NEW VALUE FRONTIER



Aquala

見えない革新。

ポリエチレンの特性はそのままに、摺動面を低摩擦化した技術。それは、人工股関節における「見えない革新。」日本発、人工関節の未来を変える「革新」を目指して。

www.aquala.jp

J-Taper ステム 【医療機器承認番号：223006Z00472000】  
SQRIM IT シェル 【医療機器承認番号：225006Z00323000】  
Aquala ライナー 【医療機器承認番号：223006Z00234000】

Aquala は京セラ株式会社の登録商標です。

京セラ株式会社 メディカル事業部

本社 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地 〒612-8501 Tel.075-778-1980  
東京事業所 東京都品川区東品川3丁目32-42 1・Sビル 〒140-8810 Tel.03-5782-7006

札幌営業所 Tel:011-280-6020 Fax:011-281-6525  
東北営業所 Tel:022-216-5176 Fax:022-216-7116  
大宮第2営業所 Tel:048-640-7779 Fax:048-641-5828  
名古屋営業所 Tel:052-930-1481 Fax:052-938-1377  
大阪営業所 Tel:06-6350-1017 Fax:06-6350-8157  
岡山営業所 Tel:086-803-3620 Fax:086-225-2289  
広島営業所 Tel:082-212-1003 Fax:082-211-3008  
九州営業所 Tel:092-452-8140 Fax:092-452-8177

http://www.kyocera.co.jp/prdct/medical/index.html

© 2017 KYOCERA Corporation



http://kansetsu-itai.com/



粘着力が良好な、腰痛症<sup>\*</sup>の鎮痛・消炎に効果を有するパップ剤

<sup>\*</sup>腰痛症(筋・筋性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫)

経皮鎮痛消炎剤 [薬価基準収載]  
**モーラス<sup>®</sup>パップXR120mg**  
MOHRUS<sup>®</sup>PAP XR120mg  
ケトプロフェン2%

[薬価基準収載] **モーラス<sup>®</sup>パップXR240mg** **新発売**  
MOHRUS<sup>®</sup>PAP XR240mg  
ケトプロフェン2%

**【禁忌】**(次の患者には使用しないこと)  
(1) 本剤又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者〔「重要な基本的注意」の項(1)参照〕  
(2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者〔喘息発作を誘発するおそれがある。〕  
(3) チアプロフェン酸、スプロフェン、フェノフィブラート並びにオキシベンゾン及びオクトクリレンを含有する製品(サンスクリーン、香水等)に対して過敏症の既往歴のある患者〔これらの成分に対して過敏症の既往歴のある患者では、本剤に対しても過敏症を示すおそれがある。〕  
(4) 光線過敏症の既往歴のある患者〔光線過敏症を誘発するおそれがある。〕  
(5) 妊娠後期の女性

**【効能・効果】**  
○下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎  
腰痛症(筋・筋性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫)、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛  
○関節リウマチにおける関節局所の鎮痛

**【効能・効果に関連する使用上の注意】**  
(1) 本剤の使用により重篤な接触皮膚炎、光線過敏症が出現することがあり、中には重度の全身性発疹に進展する例が報告されているので、疾病の治療上の必要性を十分に検討の上、治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ使用すること。  
(2) 損傷皮膚には本剤を使用しないこと。

**【用法・用量】**  
1日1回患部に貼付する。  
**【使用上の注意】**  
1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)  
気管支喘息のある患者〔アスピリン喘息患者が潜在しているおそれがある。〕〔「重大な副作用」の項(2)参照〕  
2. 重要な基本的注意  
(1) 本剤又は本剤の成分により過敏症(紅斑、発疹・発赤、腫脹、刺激感、痒痒等を含む)を現したことがある患者には使用しないこと。  
(2) 接触皮膚炎又は光線過敏症を現することがあり、中には重度の全身性発疹に至った症例も報告されているので、使用前に患者に対し次の指導を十分に行うこと。〔「重大な副作用」の項(3)(4)参照〕  
1) 紫外線曝露の有無にかかわらず、接触皮膚炎を現することがあるので、発疹・発赤、痒痒感、刺激感等の皮膚症状が認められた場合には、直ちに使用を中止し、患部を遮光し、受診すること。なお、使用後数日を経過して発現する場合があるので、同様に注意すること。

2) 光線過敏症を現することがあるので、使用中は天候にかかわらず、戸外の活動を避けるとともに、日常の外出時も、本剤貼付部を衣服、サポーター等で遮光すること。なお、白い生地や薄手の服は紫外線を透過させるおそれがあるので、紫外線を透過させにくい色の衣服などを着用すること。また、使用後数日から数か月を経過して発現することもあるので、使用後も当分の間、同様に注意すること。異常が認められた場合には直ちに本剤の使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。  
(3) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分に行い慎重に使用すること。  
(4) 腰痛症、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛に本剤を使用する場合は、以下の点に注意すること。  
1) 本剤による治療は対症療法であるので、症状に応じて薬物療法以外の療法も考慮すること。また、投与が長期にわたる場合には患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。  
(5) 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛に本剤を使用する場合は、以下の点に注意すること。  
1) 関節リウマチに対する本剤による治療は対症療法であるので、関節リウマチ薬等による適切な治療が行われ、なお関節に痛みが残る患者のみに使用すること。  
2) 関節痛の状態を観察しながら使用し、長期にわたり漫然と連用しないこと。また、必要最小限の枚数にとどめること。

**3. 相互作用**  
**【併用注意】**(併用に注意すること)  
メトキシサート  
**4. 副作用**  
本剤は、副作用発現頻度が明確となる臨床試験を実施していない。なお、ケトプロフェン20mg含有テープ剤の各承認時までに報告された副作用は次のとおりである。  
○腰痛症、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛  
総症例1156例中副作用が報告されたのは57例(4.93%)であり、発現した副作用は、発疹11件、発赤9件、痒痒感18件、刺激感5件等の接触皮膚炎54件(4.67%)、貼付部の膨疹、動悸、顔面及び手の浮腫各1件(0.09%)などであった。(モーラステープ承認時)  
○関節リウマチ  
総症例525例中副作用が報告されたのは45例(8.57%)であり、発現した副作用は、接触性皮膚炎17件、適用部位痒痒感12件、適用部位紅斑6件、適用部位発疹5件、適用部位皮膚炎3件等であった。(モーラステープ20mg効能追加承認時)  
ほかに医師などの自発的報告により、ショック、アナフィラキシー、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、光線過敏症の発現が報告されている。

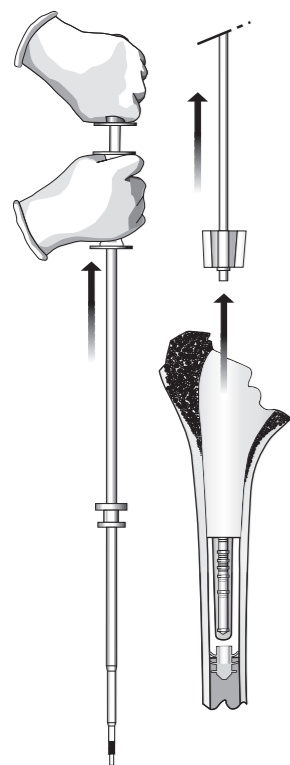
**(1) 重大な副作用**  
1) ショック(頻度不明)、アナフィラキシー(0.1%未満)  
ショック、アナフィラキシー(尊麻疹、呼吸困難、顔面浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。  
2) 喘息発作の誘発(アスピリン喘息)(0.1%未満)  
喘息発作を誘発することがあるので、乾性ラ音、喘鳴、呼吸困難等の初期症状が発現した場合は使用を中止すること。気管支喘息患者の中には約10%のアスピリン喘息患者が潜在していると考えられているので留意すること。なお、本剤による喘息発作の誘発は、貼付後数時間で発現している。〔「禁忌」の項(2)参照〕  
3) 接触皮膚炎(5%未満、重篤例は頻度不明)  
本剤貼付部に発現した痒痒感、刺激感、紅斑、発疹・発赤等が悪化し、腫脹、浮腫、水疱・びらん等の重度の皮膚炎症状や色素沈着、色素脱失が発現し、さらに全身に皮膚炎症状が拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。なお、使用後数日を経過してから発現することもある。  
4) 光線過敏症(頻度不明)  
本剤の貼付部を紫外線に曝露することにより、強い痒痒を伴う紅斑、発疹、刺激感、腫脹、浮腫、水疱・びらん等の重度の皮膚炎症状や色素沈着、色素脱失が発現し、さらに全身に皮膚炎症状が拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。なお、使用後数日から数か月を経過してから発現することもある。

●その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください。  
●添付文書の改訂に十分ご留意ください。

製造販売元 **久光製薬株式会社** 資料請求先: 学術部 お客様相談室 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号  
フリーダイヤル 0120-381332 FAX. (03) 5293-1723  
〒841-0017 鳥栖市田代大官町408番地 受付時間/9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く)

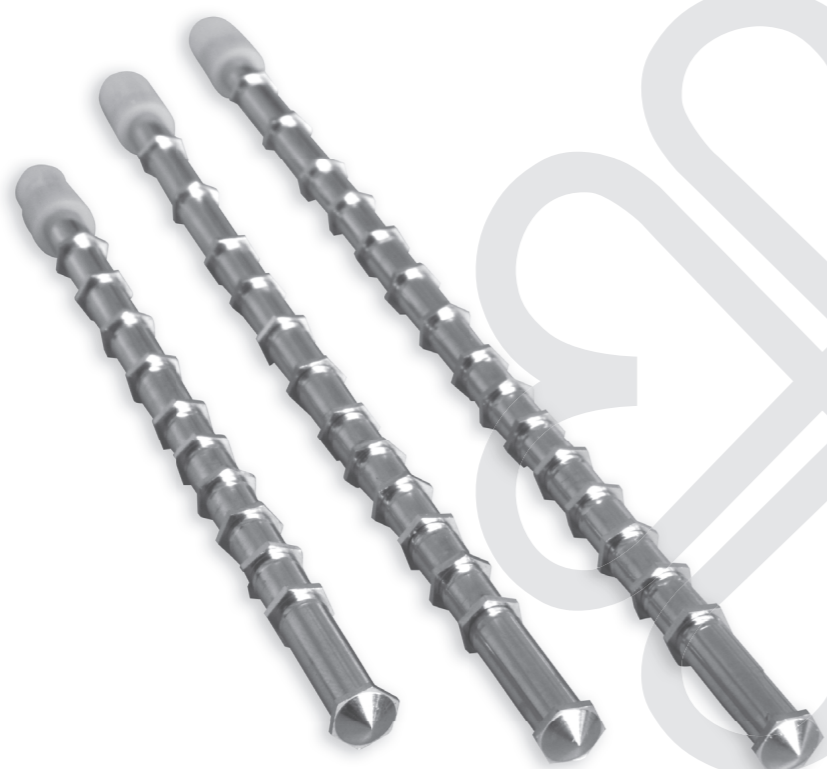
2017年2月作成





# CEMOVER Bone Cement Remover

## セムーバー 骨セメント 除去システム



■ 製造元

**TECRES**  
Advancing High Technology

TECRES S. p. A.  
Via A. Doria, 6 - Sommacampagna - Verona (Italy)  
tel. +39 045 92 17 311 - fax +39 045 92 17 330  
www.tecres.it - info@tecres.it

■ 製造販売元 (資料請求先)

株式会社 松本医科器械



〒113-0034 東京都文京区湯島4-1-11 南山堂ビル  
TEL : 03-6801-8220 FAX : 03-6801-8221  
<http://www.matsumotomed.jp/>

Medacta Internationalはスイスに本社を置く、整形及び脳外科インプラントの  
開発・製造・販売を行っているグローバルカンパニーです。Medactaは  
患者の生活の質を高めることをビジョンとして掲げております。

イノベーション、教育訓練の場を提供します。

**AMIS**

ANTERIOR MINIMALLY INVASIVE SURGERY  
IN HIP REPLACEMENT

**GMAK** SPHERE

MEDIALY STABILIZED KNEE

Leader in Anterior  
Approach Education

Stability for life



**Medacta**  
International



Unique Anatomies  
Patient-Matched  
Solutions

**A.O.R.E.**  
INSTITUTE

**MySpine**  
PATIENT MATCHED TECHNOLOGY  
IN SPINE SURGERY

メダクタジャパン株式会社  
東京都千代田区麹町3-7-4 秩父屋ビル  
TEL: 03-6272-8797 FAX: 03-6272-8798

承認番号: 22600BZX00321000  
販売名: GMAK SPHERE 人工膝関節システム  
承認番号: 22500BZX00227000  
販売名: GMAK セメントッド人工膝関節システム  
承認番号: 22800BZX00254000  
販売名: MySpine PSガイド

届出番号: 13B1X10060H01001  
販売名: AMIS モバイル レッグポジショナー  
承認番号: 22400BZX00470000  
販売名: M.U.S.T. スパイナルシステム



MEDACTA.COM

© 2018 Medacta International SA. All rights reserved. - rev.AfjO2018



まだないくすりを  
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



[www.astellas.com/jp/](http://www.astellas.com/jp/)